

御 挨拶

このところ、公立大学も「法人化」等の大きなうねりの中で、地方財政の厳しい状況もあり、図書館運営も四苦八苦しているうちに、気が付いたら年度が変わろうといたしております。平成14年4月1日付で公立大学協会図書館協議会の会長館をお引き受けして後、加盟館の皆様のご指導、ご協力を得まして総会をはじめといたしまして諸行事をどうにかつつがなく実施させていただいてまいりました。退任のご挨拶に際しましては、まずこの間の、各役員館の皆様に厚くお礼を申し上げる次第です。特に協議会の事務につきましては、前会長館の神戸市外国語大学図書館から引継をさせていただきその際にはご懇切なご教示・ご助言を賜りました。重ねて御礼申し上げます。

今年度は、公立大学協会からの補助金減額のご提案を踏まえて、今後の当協議会の運営体制の方向性を、示させていただきました。公立協会との関係は、従来通り維持しながら、予算的には「緊縮型」を目指して参らざるを得ないと存じます。そして、繰越金を大きく減らすことなく次年度に引き継ぐことが出来ました。冬の時代にはそれなりの「凌ぎ方」があるように思います。

近時提起された新たな課題につきましても、ホームページの開設など、直接担当いただいた館の皆様の御協力で、一歩前に進めることができました。この点も心より感謝申し上げます。また、おそらく会員のもっとも喫緊の課題である「電子ジャーナル問題」は、相手のある問題でもあり、一挙に解決とはいきませんでした。前に進める以外にはありませんので、次期会長校である大阪市立大学を中心に、力を合わせて取り組んでいかなければと考えております。情報交換の必要性が高まりますので、来年度も一層の御協力をお願い申し上げます。

「地方の時代」といわれて久しいのですが、大学の中におりますと、必ずしもそうとは思えないというのが実感です。たしかに、大学が大きく変わろうとしていることは間違いないのですが、「地方公共団体の視点で公立大学をどう変えていくのか」という大きな方向性は、まだ見えてきてはいないように思われます。財政難、大学統合の動きの中で、大学の最も基礎である「知」の源としての図書館が、どのようなものとなっていけるのかが、その試金石ではないでしょうか。電子化等の動きは必然であるにせよ、図書館の重みは不変のはずです。

もちろん、地域貢献の新しい展開なども模索しつつ、公立大学協会図書館協議会が、公立大学の発展のために少しでも多く貢献できることを期待いたしております。

そのためには、本協議会が様々なレベルで発展・充実することが必要です。この一年間の皆様からの多大なご支援に改めて感謝を申し上げますとともに、来年度以降の御協力をお願いして御挨拶とさせていただきます。

平成15年3月

公立大学協会図書館協議会会長
東京都立大学附属図書館
館長 前田 雅英